

「家がいいね」 第13号

いせ在宅医療クリニック 広報月刊紙

2005.6.14

慈雨が欲しい時期です。うっとおしいと思われる梅雨も、自然のものである身体を、湿度と暑さに徐々に慣らす役目があるようです。一挙に夏日がやってくるのは、

つらいなあ
と思いつつ、
通り雨に濡
れた紫陽花
をながめま
した。淡い
色合いのこ
の花が好き
です。



便利さと住みやすさ

時々、電車に乗り移動する時があり、車窓から、流れる景色を見るのが好きです。その景色の中で、農地に土を入れ、次々と道路や駐車場を作っているのを見ると、どうしてそんなに車を大事にする社会になったのか、不思議に思えるのです。

ある日、こんな家を見ました。作っている時から1階全てが駐車場の、いわゆる「ピロティ式」なので、何かのお店屋さんかと思ったのですが、そうではなく住居のようです。大事な地面を全てクルマに明け渡して住む生活が、新築から何時まで続けることが出来るのでしょうか。



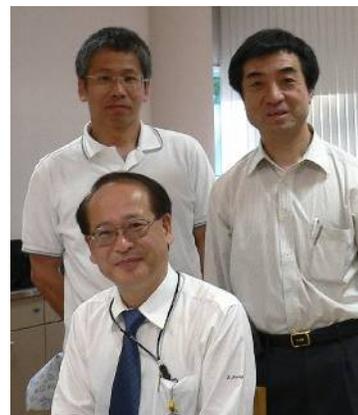
在宅ケアでは、思わぬ段差や間取りが一番の不自由につながると思います。バリアフリーとは、他の人と触れ合う機会が、当たり前前に自然に出来る環境です。地面より自分を常に持ち上げなければいけない住居は、やはり何かおかしい物です。色々なお宅を訪問して「やっぱり、平屋に住みたいよなあ」という言葉を、よく聞くのですが。

「報告

みえ生と死を考える市民の会 講演会「なぜ

家なのかホスピスケアの原点を考える」が

あり、講師の川越先生（写真中）と親しくお話もしました。病院長や施設ホスピスケアを経験された先生が、施設ではなく家がホスピスケアの一歩大切な現場であると、一人の医師として年間86人のガンの人の家での看取りをされている実績には驚きます。優しい心配りの先生でした。



松阪での在宅クリニックのご紹介

今、私の友人である、木田英也医師（前写真左）が、8月に **在宅医療クリニックゆめ** を松阪市に開院準備中です。順に同じ

ようなクリニックが出来て、患者さんの家に帰りたい気持ちに応える事が出来ればと思います。詳しい情報は次号で。

出張の時のお願い

木曜や日曜の休診日には、

この日でなければ出来ないボランティア的活動を時に予定します。訪問看護師が、休日の待機当番を交代で引き受けてくれるようになり、伊勢市外へ出る私の気持ちも少し楽になりました。

出張の場合、まず担当の看護師が連絡と処置に当たらせていただきます。代診の医師もお願いしています。その点はよろしくご了承下さい。



自宅での人生を
最期まで支援します

〒516-0805
三重県度会郡御園村高向 927
電話 0596-20-8104
ファクス 0596-20-8105
mail homecare@kr.tcp-ip.or.jp
HP <http://tcp-ip.or.jp/~takuro>